

第4回夕張市高等学校対策委員会会議録

1 日 時 平成25年7月29日(月) 午後6時～午後7時12分

2 場 所 夕張中学校 2階 多目的室

3 出席者 小網・加藤・伊藤・大山・西・南條・白井・有村・小林委員

4 委員長挨拶 小林委員長

5 報告事項

(1) 平成25年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会(第2回)について

6 意見交換

委 員 計画案を見ていると、道教委も間口を減らすためにこの計画を作っているとは思わないのですが、26年、27年、28年にしても推計でやっていますよね。

で、岩東が27年に1間口減る、これも推計ですよね。

だとしたら、夕張高校が26年はしかたがないかなというところはあるのですが、27年についても推計でいけば2間口、ひとつ増えるよという表記はできないものか。

委員長 25年度の地元の中学進学者数と、来年度地元中学生がどれだけ夕張高校に進学するのかというところだと思います。

ですから、戻すことは先ほどお話ししたように今年も戻った学校がありますので、その状況によって戻すところは戻しますという言い方をしています。

今の時点で27年度戻しますよということについては、道教委は言っていないということでもあります。

委 員 前回もお聞きいたしました、状況が分かっていますので戻すこともありますという言い方をされているということでしょうか。

委員長 それに近いニュアンスではお聞きしている。

ただ、26年度の地元進学率がどうなのかというのを見ているだろうと思います。その他なければ前回の委員会以降の中学校の状況を報告願います。

委 員 6月に入りまして、2回目の進路希望調査を行ったところでありまして、夕張高校への希望者数につきましては、2名増えた状況になっておりますけれ

ども、まだ30名には至っていない状況であります。

どこの学校をどういうふうな意図で志望しているのだろうかということについて、地元の高校ではない学校を受ける子どもたちに個別に一人ひとり担任、あるいは私が当たらせていただいた経緯があります。

その中で出てきたもので、まずひとつは、大きなウエイトを占めているのですが、スポーツ、その他の活動がきちんとできるところに進学したいということで進学先を決定している生徒がおります。

野球、スキー、バスケットボール関係、段々最近みんながんばってくれていまして、中体連でも勝ち上がっていくようになってきております。

全空知大会や、あるいは全道大会、あるいは今回相撲の子もいるのですが全国大会にということもありまして、やはりそういう夢が大きくなっていったときにスポーツがきちんとできる学校へということで、そういう学校を志望している子が全体の中で6・7人出てきているというのが現実であります。

それから、調理師になりたい、あるいは看護師になりたいという希望を持っている子は三笠の高校であるとか、美唄聖華という学校を希望する傾向が出てきておりますし、同じような意味合いにおいて農業後継者ということばかりではなく、一部は農業後継者であります。もう1名は自分としてこれから農業を中心として、実家は農家ではないのですが、地元が農業を中心としてやっているということがあれば農業の勉強がしたいということで、岩農を希望している生徒が出てきているというような状況であります。

そのほか、大学進学を考えるということで、岩見沢東高校、西高校、緑陵高校を志望している生徒も総計で5名おります。

まだ学力テストが1回しか実施されていないので、全体的な傾向がつかめている訳ではありませんが、今の状況をお知らせすれば、夏期休業中の学習会に参加している生徒が今までになく多くて、毎日50名の内30名近くの生徒が学習会に参加している状況であります。

特に、なかなか理解に時間がかかる傾向のある子どもたちは個別に学習を進めております。

少しずつ少しずつですけれども自信を持ち始めているということもあります。

そういう状況の中で、まだ実際に子どもたちはある程度の進学先を確定していくのは10月頃になるのかなと思いますけれども、点数だけみればなかなか厳しい状況の中でも、子どもたちはこういう風なことはできるという観点を持ちながら保護者とも相談してその上で学校の調査に臨んでいるという傾向が今のところあります。

全体的にはそういう状況であります。

委員長

ありがとうございます。それでは次に西校長お願いいたします。

委 員

特に特徴的なことはないのですが、この間、インターンシップを今年から学校行事と位置付けて、将来の職業勤労感等を養うひとつの重要な柱として取り組んできております。

ここにおいでの方の団体の皆様には大変お世話になっているところであります。

この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

そのインターンシップでの子どもたちの状況を教頭から聞いているところによると、子どもたちも非常に楽しい、それから将来の進路選択に非常に役立てるきっかけになった、それから受け入れてくださった事業所等の皆様からも大雑把ではありますが、礼儀正しくて、意欲的に働いておりましたということで、ある程度以上の評価をいただいているところであります。

それから、二つ目は、学校祭で地域の皆様には非常にお世話になりました。PTA会長はじめPTAの皆様にお世話になりましたけれども、去年と比較して子どもたちの能力そのもの自体は変わらないかなという印象は持っておりますが、夕張高校の伝統行事であります演劇の質が今年は非常に高まりました。

去年よりはクラスもまとまり、甲乙つけがたく、なかなか審査も大変でしたけれども、非常に熱心に取り組んでクラスがまとまってきたと感じております。

担任も若いのですが、子どもたちの中に入って行って、そのような学級づくりを側面から周りの先生たちから援助をいただきながら行い、教師としても成長を遂げてきているというところもあります。

それから、夏期休業中の今は、去年見られなかった部活動が非常に盛んであります。

外の部活がひとつ増えまして、フットサルが盛んになってきたということもありまして、草ぼうぼうの状態がなくなってきました。

どうしても生徒数が減少してくると外のクラブが少なくなりますし、環境整備も追いつかないということですが、フットサルを専門に行う先生もいるということで現在の状況になっております。

その代り、屋内のクラブが一部休眠状態になっている部分もあり、中学校の要望にどれだけ応えられるかという、既存のクラブの指導者等の力量含めて養成していかなければならないし、ありとあらゆる部活動をやりたいという子どもたちに対することには基本的には応えようと思っておりますが、なかなかそうはならないのが現状であります。

今後重点化を図りつつ、学校の活性化の柱としていきたいと考えております。

それから、学力の面でありますけれども、中学校で基礎学力等含めて行っていただいていることは理解しております。

今の1年生は当初やんちゃな子どもたちが多いというお話でしたが、現在は非常に落ち着いて色々なことに取り組んでおります。

1年生を中心として人間関係づくりで、ピアサポートの取り組みを行っており、学級づくりの柱として今取り組んでおります。

2・3年生につきましては、進学対応の子どもたちを含めて一人ひとりの子どもたちになるべく希望に沿うように、先生方が自ら進学でも就職でも率先して行っているところでもあります。

あとは中学校と具体的な連携の仕方を今検討中であります。

委員長 それでは先ほどの私からの報告も含めて、意見質問等あれば出してほしいと思います。

委員 先ほど来のお話を聞いておられますと、やはり来年度夕張高校に入る生徒の人数がかなり重要なのかなという気がしております。

今校長先生がおっしゃったように7・8人は明確な意思を持ってこういうようなことを学びたいということで市外へ行くということはやむを得ないことだとは思いますが。

ただ、今現状進路が明確に決まっていない、どうしようかという生徒もかなりいるのではないかと私なりに思っております。

そんな中で、やはり夕張高校の利便性ですとか、こういう良い所があるよ、進学に関してたとえば吹奏楽も持っていますですとか、そういうことも、はたして家庭の保護者の皆さんは知っているのかなというところもありまして、きちんとした中で説明する機会というは作った方がよいのではないかと思います。

まして27年度は63人ですか、その中で1間口ですと20数名市外に出て行かなければならない、現状で言うと10数名かなと、であると10名ないしというところが高校に行かれないというような状況、本日も栗山のPTAの方とお話ししてきたのですが、1間口減ということで、なんとか栗山としては防波堤になりないうお話もしておりましたけれども、たぶん栗山は岩見沢に一番近い現状ですから、一番初めにやられてしまうのではないかと気もしておりますので、ここが踏ん張りどころかなというお話もしておりましたので、もっともっと夕張の利便性というところを説明するべきなのではないかと思いました。

おそらく知らないのだと思います。

委員長 今校長さんの中で進路についての考え方がいくつかあると思いますが、いかがでしょうか。

委員 前回の委員会でもお話しさせていただきましたが、PTA会長からお話があった通り、中学校の努力として高校の内容と言いますか、高校の良い所をやはり広めていく必要があるなと思っております。

まずは中学校で行っていることは、それよりもなによりも高校に進学しても困らない学力をみんなでがんばってつけようということで始めております。

でも、これと並行して2学期からは今お話しいただいたように、こういうもの

もあるよ、ということを経験の先生方から教えていただきながら、うちのに学校に来たらこういうこともできるよ、中学校でこういうことがあったかもしれないけれど、こういう風に発展できるぞというようなことを、前にもお話しいただいたように、高校からは何とか今年は学校説明会も実施させていただきたいということで申し出もいただいておりますので、日程等については詰めてはいないのですけれども、早めに行っていきたいと考えております。

12月には三者懇談会で最終的に受験校を決めなければ、願書の取り寄せの関係がありますから間に合わなくなってしまうので、その前の早い段階でそういったものも一度計画してみるとか、そのようなことを行いながら、とにかく夕張高校の良い点をもっともっと子どもたちに広めていくための手立てを2学期からは打っていきたいと思っております。

フットサルなんていうのは、実はうちの生徒の中ではサッカーをやりたい子はいのですが、ところが人数の関係で男子生徒をそっちに取られてしまうと野球部が成立しなくなってしまうということもありまして、結局我慢して野球部に入ってしまったたり、あるいはサッカーができないのであれば部活に入らないという子ですとか、そういった子もいますので、今お話しをうかがってフットサルもあるのだという風に、私も勉強不足でフットサルのことは初めて聞きましたので、そういったものも子どもたちに話をするとまた変わってくる部分、やりたいことが沢山あるので、そういったものに少しずつ働きかけをしていきたいと思っております。

委員長 西校長いかがですか。

委員 中高の連携の生徒募集の具体的な取り組みにつきましては、中高の教頭を窓口として話を進めているところであります。

中学校の伊藤PTA会長からのお話がありましたように、まず高校の努力として地元の高校、ほかに行かなくても地元の高校へ来てある程度夢が実現できる、そういうことを中学校の生徒に分かってもらうという、そういう努力も絶対必要なのですよね。

その努力が、今までまったくなかったとは言いませんけれども、足りなかったという認識は当然もっております、そういう機会を設けていただけないでしょうかということ、今話が進んでいるということでございます。

具体化につきましてはまだ煮詰まっていない状況であります、それを私の方では教頭に指示を出しているところでございます。

ただ、どういう説明の仕方と言いましょ、アプローチ含めてPRの仕方がいいのかというのはこちらの方の知恵の絞りどころなのですが。

二つ目には中学校の先生方にも地元の高校がいいぞという風に思ってもらえるような、そういう努力も必要でしょうし、保護者の方にもわざわざ高いお金を掛

けて他の所へ行かなくても希望はある程度叶えられるというようなものが高校として作れるものがあるとすれば、それは何かということも現在検討しておりますが、どちらにしても地道に学習指導や生徒指導や進路指導を我々の方はやっていくしかないと考えているところであります。

委員長 伊藤委員よろしいでしょうか。そのような形で今年は取り組んでいきたいと、具体的に進めているということでもあります。

委員 はい、わかりました。

委員 要望に関わってくるのかもしれませんが、27年度はこれは大変だぞということですが、26年度だってどうなのかということでも心配になっているところがあるのですけれども、今中学校から報告をいただきまして、進路希望が去年のような進学やスポーツや専門学校へということが結構あるということですが、現実に来年進学しようとする子どもたちの気持ちとして情動的にどのへんまで理解しているのか、1間口になりそうだと、全員行ってしまえば50人だぞという危機感といいますか、心配、不安というものが今の中学の子どもの中にあるのかなという、その中で勉強していくというのがちょっと心配なのですが。

その辺の状況はいかがでしょう。

委員 全体的に、たとえば何人市外に出そうだから自分たちがどうのこうのという、そこまでは子どもたち自身の中にはありません。

実際の調査も数として子どもたちに示すということはありません。

保護者にはある程度こういうことがありますよということでお話しはさせていただいているのですが、ただ、今の子どもたちがはっきりしておりまして、この前こんな話をした子がおります。

実は、「自分は介護の方に進みたいんです。」ということで、「いいことだよ」という話をしたのですが、そうしたら、「うちもなかなか厳しいところがあるから遠くには行けないし、専門学校というのはいっぺんに沢山のお金を出さないと」となった時に、「私は栗山の介護福祉学校に行くのが良いのかなと思うんです」という話をしたのです。「ただ、栗山の福祉学校というのは高校を卒業した人達を受け入れる学校だから、高校を卒業しなければならないのだよ」という話をした時、「だったら先生栗山高校に進学したほうが有利だよ」という話をしてくるのです。ですから「どうして」と聞くと、「同じ町だもの」ということで、ようするに細かなことがまだわかっていないということがあります。

今3年生の先生方の黒板の後ろに学校公開というのが出ておりまして、岩農、三笠、岩見沢の方から札幌の方から千歳のほうからずらっと約10何校一覧表になって書かれています。

それが逐次どんどんどん保護者の方に渡されている状況です。

何々高校のこれがあるから、もし興味のある人はその公開に行っておいで、そして説明を聞いておいでという話をして、今何校か言って、帰ってきた子から話を聞くとすごく楽しそうだったという話をしながら帰ってくる。

やはり、実際に子どもたちにそういう風に見せて、それからどう感じるかというのが子どもたちには一番大きいのかなと、資料としては沢山送ってくるものを貼っていくのですが、教室にも束ねてあるし、もう少したつと一覧になったものも出てくるので、そういう資料も全部学級には備えていくのですけれども、やはり紙切れみたいなものを揃えるよりも、実際にそこへ行って見せていただくことが一番大きいなと最近強く思うようになってきております。

ですから、今夕張高校の存続ですとか、そういう意識で子どもたちも自分の進路を考えていませんので、やはり自分がどうなのだろう、自分がやりたいことは何なのだろうということで、それを中心に、ただお母さんと話をしなさいですとか、そういうことを積み重ねながらどのような進路を取っていくのが一番良いのかというように動いているところが正直なところだと思います。

委員

道教委の方向は方向として、夕張的には26年度も要望書の中にもあります「とりわけ」ということではなしに、今3年生が安心して夕張高校に行けるんだというようなことを、地元の私たちが要望する要望の中に強く訴えていただければなという、提出の部分では、ただやはりその部分は道教委と充分話をさせていただいて、26年度もあるわけですから、25、26と、これ以降になるとなかなか子どもが要求でき得ない環境ですので、少なくともそれについてはみんなで子どもたちを安心させて、私たちはそう願っているのだということは訴えていただきたいなと思っております。

それで先ほど進学、それから就職に向けた専門高校等々については、それぞれ判断して行くのでしょからやむを得ない部分があるのだと思いますが、私が今勤めているところで、進学校だと思のですが、小樽の高校ですとかが、1年生になって1週間もたたないうちに3日くらい合宿をして、我々の高校は何々を目指しているのだ、あなた方もその学校に入ってきたのだぞ、というような合宿をするのですね。

ほとんどが進学を目指しているところだと思うのですが、おそらくその経費も自分持ちだと思うんです、公立でそういうことはないでしょうから。

ただその夕張高校が目指すところというのは、教育長も言われているとおり、専門的なものという風にはいけないので、色々な希望を叶える高校ということで、なかなか難しいのでしょけれども、子どもたちが高校へ行く時に、私は夕張市高校へ行きたいんだと、こういうことがあっていきたいんだという、望んで行く子どもが全員であればうれしいのですけれども、まだ方向が決まらない、地元だからということで行かれる子どもがこれから3年間どういう勉強をするん

だという部分で、入った時にどこまでできるかなのしょうけれどもそういう部分というのは学校内の方ではあるのしょうか、1年生に入ってからというか。

委員

それはありません。

俗に言う、進学校ないし進学校に追いつけ追い越せという準進学校といわれている学校のやられているような進学受験合宿のようなものはありませんが、私どもが目指しているのは色々な子どもたちがおりますので、学力的には北大に受かる子どもから分数の計算ができないお子さんもおりますので、これは当然教員の人数が定数法で限られておりますから、すべての子どもの個々人の子どもに満足いけるようなところとはなかなか無理なところでもあります。

しかし、一斉授業では今はできませんので、そういう時代ではありませんし、個々の子どもたちに合ったそういう手立てを取るということで、先生が2人入るTTという方法であるとか、放課後個人的に個人指導を行ったりですとか、そういうことで手立てをとっているのが現状であります。

これは多くの小規模校はみんなそうであります。

ただ、小規模校だからゆえ、大規模校にないものは何かといいますと細かな指導ができるということであり、入ってきた段階は大した目的意識もない、そのような子どもでも手がかけられるという利点があって、成長して最終的には自分が希望する方向の進路が確定していっているという子どもたちが多い訳です。

ですから、夕張高校の特徴はなんだと言われたら、それは言葉で説明すれば、多様な進路に対応する教育を実践しております、具体的になんだといいましたら、少人数指導によるきめ細かな進路相談や、生活指導の相談、そういうことで対応して、自分が希望する、ある意味では進路を実現するようなどころまで行く、あとは私個人の想い感想ですけども、昔は就職にしても進学にしても率はそんなに問題にできなかったのですが、100%に近づけなければだめだとか、今は、中身よりも率が問われるというそういう時代ですので、本人が希望しなくてもそういう方向が良いのではないだろうかということ、進路指導でやってしまう可能性があるわけです。

その結果、率は上がるのだけれどもミスマッチが起きて定着はしないという現実も片方ではあるのです。

ですから、これはどっちが良いのかということは永遠の課題だと思っていますけれども、確かに進路実現という観点から、つまり率からすれば2・3年は100%決まっておりますと、大学であれ就職であれ、そういうのはあるのですけれども、では就職を例に取ってみると、今年すでに辞めてしまった者が2・3人いますから、教頭が私の代わりに頭を下げに行っているという現状はあるのですけれども、率もある程度重視しなければなりません、本当に自分がこういう方向で行きたい中身も非常に重要だなどそういうに感じております。

委員 実は今高校の校長先生が言われた演劇が素晴らしい、レベルアップしているということですが、私もPTAをやらせていただいていたときに、一番最初に見たのが演劇でした。

特段小学校、中学校で演劇を勉強している訳ではない中で、高校の演劇のすばらしさというのをPTAになって初めて私も見まして、これはまずお父さんお母さんに見せなくてはならないだろうと、一生懸命やっている、それで今もやっていると思うのですが、始まったのが、PTAの方々に焼き鳥を作ってもらったというのは、焼き鳥を作るのが目的ではなくて、子どもたちの演劇を見てもらおうということで始めたことだったのですけれども、たとえば演劇ですとか、それを中学生に見てもらおうとか、前にも話がありました吹奏楽、楽器を用意して中学校でも、というのがありましたから、先ほどの話ではスポーツ希望が多いようですから、そういうスポーツですとか演劇とか文化だとか、そういう部分を含めて夕張高校の良さというのを、特に親も含めてPRして行って、進学の方は私どもPTA関わって何回も聞いておりますから、本人の努力も含めて頑張れば特段進学高校に行かなくても夕張高校で十分培われるということは聞いておりましたが、その辺のところは関わった人間としてやっていかなければならないと思いますが、スポーツだとか演劇だとかそういう部分の関わりを持つことが中高としてやりやすい環境になるのかなという気も今聞いていて思いました。

委員長 それでは、その他よろしいでしょうか。

委員 今の話と関連してくるのですけれども、先ほどお話しがありましたクラブ活動にしても、野球、サッカー、団体競技はなかなか人が少なくて成り立たないということですが、たとえば、卓球ですとかバドミントンですとか、相撲もそんなのですけれども、団体種目もあるけれども個人種目もあるというような、少なくともインターハイなり、色々な大会に参加できるという種目に力を入れて特色を出すという意味では、前にも話が出ていましたが、スキーなんかは地元で日本のトップクラスのレベルの指導者もいて応援してくれると、これは中学校も高校も該当するのですけれども、地元の子どもたちが一番というのは分かりますけれども、外に向かっても夕張に来たらこういうことができるということをもっと出して、外からも呼び込むようなそういう取り組みというのは難しいのでしょうか。

委員 去年もスキー留学生と言いますか、1月2月ころに他府県ですとか、あるいは道内からも転入して2か月間ですとか3か月間このスキー場で指導受けている子どもがいたり、色々な子どもたちがこの環境の良さというのが十分みんな分かっているようで、ただなかなか一人だけぽつんとはなかなかならないものですから、数は多くはないのですが、そういう風になってきている部分は多分に

あるとは思っております。

それから今年の3年生でも本当に強化選手になって色々なところへ行ったり、今は勉強も頑張り始めておりますし、自分が高校に行ってやはりスキーをやりたいというところで、小中で連携を取れるようになって、それが更にスキー連盟の方ですとか、そういったところと連携が取れるようになっていくとそういうのも可能になるのかなとは思っております。

中学校まではやっている子があまり多くはないのですが、1年生に1人、3年生に1人、2年生にはいないのですけれど、なくなってはいない状況です。

委員

先生方が顧問という形でなければならないのでしょうかけれども、今言ったような形で、中高一貫で先生方の協力もそうですけれども、外部の方の協力もいただきながら中高一貫で指導していただけるというような、これが夕張に来たらあるのだということがある程度確立されると、そういう話は関係者に広まって、じゃあ俺も夕張行ってみようかというような、これは何十人とはならないのでしょうかけれども、そういう打ち出し方があっても良いのではないかと思うのですけれども。

なんの競技でも該当するかというと、指導者の問題もありますから全部が全部ということにはならないのでしょうかけれども、特に思いつくのが今でいえばスキーであります。

委員

夕張の場合は相撲もそうでありますけれども、残念ながらこの後後継者がいなくなってしまうと、今の3年生が抜けて、今の2年生の中にも頑張っている子がいて、そういう子たちの次の代がなかなかいないということがありまして、たぶん団体戦が本格的に組めるのは今年が最後かなと言いながら、実は今年も全国大会に行くことになり、蓮間先生はじめ沢山の力をお借りして助けていただきながら指導していただいてそういう結果を出すことができているということで、その部分を掘り出していくのも必要なのではないかと、決してスキーと相撲だけではないような気がしますので、昔の夕張の子どもは全体的に強かったということで、他にもあったと思います、絶対数が少ないですからそんなに欲張ってあれもこれもということではできませんが、ひとつでも、二つでも見つかってその魅力に子どもたちが来てくれるような状況を作っていければ本当に変わっていくのではないかと思いますので、今ある良いものを絶対なくしてほしくないと思いますので、色々な方にご協力いただきながら進めてまいりたいと思っております。

委員長

色々な可能性の問題はあります。今のスキーもそうですが、中学校の先生にその指導にたけている先生を入れてそしてこうするというのは、なかなか限界にきているのが実態でありまして、先ほど申しました通り地域と学校との色々な連携

の中で可能な部分というものはあると思うのですけれども、なかなかそれだけでは生かし切れないのではないかと思います。

高校には今スキー部にはおられましたか。

委員 2年生に1名おりますが、野球部と兼任であります。

委員長 それではよろしいでしょうか。

次に協議に移りますが、昨年の12月にこの委員会をスタートさせてから今日含めて4回検討会議を行ってきました。

そして今日も含めて色々な議論がなされているのですけれども、先ほど私の方から申し上げたように、9月の第1週と言っておりますが、26年度から28年度の配置計画の決定がされることから、当委員会から次のような要望書を提出していきたいと思っております。

文言等何かありましたらご意見をいただきながら必要に応じて代えたいと思っております。

事務局で、一応読んでいただけますか。

事務局 (要望書案を読み上げ)

委員長 先ほど加藤委員から指摘のありました「とりわけ」が必要あるのかないのかということが出ておりましたが、いかがでしょうか。

委員 要望書のようなものはある程度形があるのでしょうかから、こういったことを要望するというので、事務局に一任で良いのではないかと思いますのですが、どうでしょうか。

委員長 そのほかにご意見ありませんでしょうか。

今日色々話し合われた中身も含めて、この文言通りで道教委に説明をしてきたいということで取りまとめたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

決して26年度ギブアップはしていないよということはきちんと言いますので。

それで、今回このような状況を受けて私どもとしては予想としては2年越しで対応していかなければならないと思っておりますし、最初の道教委に対する要請ということもあまして、しかも9月の上旬ということですから早急に行いたいと思っております。

それで、私と副委員長の小網さんと事務局から課長と3名で道教委の方へ行ったいと思っておりますが、その点よろしいでしょうか。

委員 はい。

委員長 それでは今までの経過を含めてこの要望書をお持ちして説明してきたいと思
います。そのように決してよろしいでしょうか。

委 員 よろしいです。

委員長 それではそのように行っていきたいと思います。
その他を事務局からお願いいたします。

7 その他

事務局 次回の対策委員会の開催日程についてであります。今後道教委から平成 26
年度以降の配置計画が出されることとなりますけれども、検討を要する事項等が
出てまいりましたらその都度ご案内申し上げたいと思います。

また、10月11日このあたりに対策委員会を設けるかもしれませんので、その
点お含みおきいただきたいと思います。

私からは以上であります。皆様から何かございませんでしょうか。

委 員 ありません。

委員長 それではそのような日程で対応したいと思います。

そろそろキャンパス校の非公式な打診みたいなものが、おそらく年度内、ある
いは年内中に出てくるということが想定されますので、それはそれとしてまた改
めてイメージとしてはどういった 29 年度以降の夕張高校を見ていくのかという
ことで、これらの議論も進んでいくと思いますけれども、ひとつよろしくお願
いいたします。

それでは以上をもちまして第 4 回目の対策委員会を終わりたいと思います。

長時間大変お疲れ様でした。

8 閉 会